

蒼穹ニュース

No.2

関西インカレ総括号

平成 25 年 5 月 23 日発行



～～～ 目 次 ～～～

1. 主 将 挨 拶
2. 監 督 挨 拶
3. 関西インカレ対校得点
4. 関西インカレ詳細
5. 新 入 部 員 紹 介

主将挨拶

先日行われた関西インカレにおいて、京都大学は 150 点を獲得し、男子 2 部 2 位で実に 5 年ぶりの 1 部昇格を果たしました。目標としていた総合優勝での昇格にはあと一歩及びませんでした。選手、応援、サポート、マネージャー全ての陸上部に関わる人間が一丸となって戦った価値ある対校戦となりました。

個人ではハーフで大会タイ記録で流れをつくった平井(4)、複数種目で上位入賞した牧川(4)、石田(2)、櫻井(2)、平井(2)など多くの選手が自己ベストを更新し京大の良い流れを加速させました。しかしトラック種目では全種目で得点を重ねることができた一方、フィールド種目では弱さが出たと感じています。来たる全日本大学駅伝予選、七大会、来年の 1 部での戦いに向けてより一層強いチームになるため部員一同さらなる努力を重ねていきたいと思っております。

最後になりましたが、ご多忙の中応援してくださった蒼穹会の皆様には心より感謝申し上げます。今後ともご支援ご声援のほどよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部主将 西村 優汰

監督挨拶

4月24日に行われましたロードの部を含め、5日間にわたる関西インカレが終に閉会しました。結果は総合2位。目標としてきた2部総合優勝を逃したことは誠に残念ですが、悲願であった1部昇格を達成できました。

今大会、平井幹(4)、石田(2)、櫻井(2)らの優勝や、4×100mRの四連覇活躍も素晴らしいものでした。そして本当に多くの選手がランキングを覆し、チームを勢いづけてくれました。これは選手・応援・マネージャーの力が合わさった結果であり、まさにチーム一丸となって戦い、1部昇格を達成しました。

しかしチームの目標はあくまでも総合優勝でした。優勝した摂南大学の総合得点は171点、京都大学は150点。ロードの部において12点リードしましたが、3日目に逆転され、そのまま敗北しました。京都大学は善戦したのですが、摂南大学に比べ、勝負どころの弱さが目立ちました。これが敗因であり、今後の大きな課題です。今回の結果を十分に反省し、伊勢予選、七大会に向け再始動して欲しいと思います。また来年度からは1部で戦います。このことを念頭に置き今シーズンを過ごす必要があります。これからチームがさらにレベルアップすることに期待します。女子部も数年ぶりに見事得点を獲得しましたので、これを機にさらなる高みを目指して頑張ってもらいたいと思います。

今年も多くの先輩方が応援に駆けつけて下さりました。1部昇格もこれまでチームを支えて下さった先輩方のご尽力によるところが大きいです。誠にありがとうございました。今後ともご支援、ご声援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部監督 堀田 孝之

第90回関西学生陸上競技対校選手権大会

男子2部総合成績 (上位8校のみ)

1位	摂南大	171点
2位	京都大	150点
3位	神戸大	99点
4位	大阪大	93点
5位	大阪市立大	52点
6位	大阪経済大	39点
7位	大阪産業大	35点
8位	大阪府立大	33.5点

男子2部トラックの部

1位	京都大	115点
2位	神戸大	77点
3位	摂南大	56点

男子2部フィールドの部

1位	摂南大	99点
2位	大阪大	65点
3位	京都大	24点

男子2部混成の部

1位	摂南大	16点
2位	京都大	11点
3位	神戸大	9点

男子1部総合成績

1位	関西学院大	215点
2位	大阪体育大	130.5点
3位	立命館大	93点
4位	関西大	81点
5位	大阪教育大	53点
6位	びわスポ大	51.5点
7位	京都産業大	51点
8位	龍谷大	44点
9位	近畿大	42点
10位	同志社大	41点
11位	天理大	30点
12位	京都教育大	26点

女子総合成績

1位	立命館大	125点
2位	東大阪大	111点
3位	園田学園女子大	75点
24位	京都大	4.5点

関西インカレ詳細

第1日目 (4月24日 長居公園周回)

ハーフマラソン 決勝

1位	平井 幹 (4)	京都大	1:06:01 (大会タイ)
2位	岡田 将輝 (3)	大阪学院大	1:06:22
3位	谷本 旭洋 (3)	大阪経済大	1:06:29
4位	溝渕 大輔 (3)	大阪経済大	1:06:38
5位	タイタスキハラ (4)	奈良産業大	1:07:28
6位	小西 雄大 (4)	滋賀大	1:07:49
7位	横山 裕樹 (4)	京都大	1:07:57
8位	久本 駿輔 (4)	京都工繊大	1:08:09
20位	荒木 伸哉 (4)	京都大	1:12:22

関西インカレ最初の種目、ハーフマラソン

には荒木、平井幹、横山裕樹が出場した。

平井と横山は表彰台以上、荒木は得点を狙う走りをしたが、荒木は中盤苦しい走りとなる。平井と横山は先頭集団に位置付けたが、10 km手前で平井が前を出て、後続の差を広げ、独走態勢をとった。その後一度も先頭を譲ることなく全体でトップ、大会記録に並ぶ快走を見せた。横山は上位集団に離されながらも何とか粘り、入賞は確保した。荒木は得点こそなかったが、チーム全体で12点を獲得し、総合優勝に向けていいすべりだしとなった。(平井幹)

ハーフマラソン終了時点での男子2部対校得点

1位	京都大	12点
2位	大阪経済大	11点
3位	大阪学院大	7点
4位	奈良産業大	4点
5位	滋賀大	3点
6位	京都工繊大	1点

第2日目 5月9日(木)

長居第1陸上競技場

女子400m 予選 (5組 3着+1)

熊澤 真奈 (3) 3組8着 1.03.34

女子400m予選は、気温約25度、ほぼ風のない好条件下で行われた。3組に登場した熊澤はスタートから他選手の先行を許してしまう。その後バックストレートでもじりじりと後退していく苦しいレース展開となった。200m地点に差し掛かるとピッチを上げ、追撃を試みるも、その差はなかなか詰まらない。ホームストレートに帰ってきた時点で先頭との差は大きく開いており、悔しい8着でのゴールインとなった。(梶原)

400m 予選 (3組 2着+2)

庄司 真 (3) 1組2着通過 49.24

1 周にかけて追い風が吹く絶好のコンディションの下、男子 400m 予選が行われた。

1 組に出場した庄司は、前半から飛ばす選手がいる中、いつも通りの落ち着いた走りを展開した。200m を過ぎた辺りから先頭との差を詰めてゆき、ラスト 100m は混戦に。その中でも最後まで粘りきり、49"24 の自己タイ記録で 2 着につけ見事に決勝進出を決めた。(辻)

女子 1500m 予選 (3 組 3 着+3)

岩橋 優 (M1) 1 組 6 着通過 4.35.50
田中友理 (4) 2 組 11 着 4.56.24

岩橋はスタートでポケットされていたが、2 周目に抜け出し、800m を 2'25 で通過。その後もペースを維持し 4.35 でゴール。決勝へ進んだ。田中は合宿後から疲れが溜まっていたようだが、大会ではそれを感じさせない走りを見せた。1 周目、2 周目はペースが速く、集団と集団の間にありつつもペースを落とさず 800m を 2.33 で通過。3、4 周目は大阪大の選手と競って 4.56 でゴールし、夏につながる試合となった。(加藤)

1500m 予選 (3 組 3 着+3)

櫻井 大介 (2) 1 組 1 着通過 3.59.88
久好 哲郎 (4) 3 組 3 着通過 4.01.32
平井 健太郎 (2) 2 組 2 着通過 4.03.09

男子 1500m 予選には久好・櫻井・平井の 3 名が出場。1 組目の櫻井は、前半は集団の中で力を温存し、ペースアップにも冷静に対応して危なげなく 1 着で通過。2 組目の平井は、1000m 付近で集団から抜け出して

先頭に立ち、一度は集団に吸収されるもののラストスパートで盛り返し、2 着で通過。

3 組目の久好は 700m 付近から 2 位につけ、後続に迫られたもののラスト 200m からのスパートでかわし、3 着で予選を通過。3 人全員が決勝進出を決めた。(下迫田)

100m 予選 (6 組 3 着+6)

石田真也 (2) 4 組 1 着通過 10.79 (±0.0)
牧川真央 (4) 2 組 3 着通過 10.99 (−0.3)
眞武俊輔 (5) 3 組 2 着通過 11.13 (±0.0)

男子 100m 予選には、眞武、牧川、石田が出場した。当日はコンディションに恵まれ、好記録も期待された。2 組に出場した牧川は、危なげなくとはいかなかったが、現蒼穹記録保持者にふさわしい、貫禄ある走りで準決勝進出を決めた。3 組に出場した眞武は、安定感のある走りで、見事着順での準決勝進出を決めた。4 組に出場した石田は、50m 付近で一人抜け出し、後半は余裕を持った走りながら、10.79 という好記録で 1 着でゴールした。3 人ともこの調子で、準決、決勝では好記録を連発することが期待された。(山田健太郎)

女子 1500m 決勝

1 位 前田 彩里 (佛教大 4) 4.28.17
2 位 廣田 麻衣 (立命館大 1) 4.28.63
3 位 広瀬 亜美 (関西大 1) 4.29.68
9 位 岩橋 優 (京都大 M1) 4.37.26

女子 1500m 決勝には予選を通過した岩橋が出場した。一つの大きな集団の後方からのスタートとなった。400m の通過は約 72 秒、800m の通過は約 2 分 26 秒で岩橋は後方で

あったが先頭からもそれほど離れていなかった。1000m あたりから集団がばらつきはじめ、岩橋もすこし先頭集団からは離れてしまったがラストスパートで何人かをかわし9位でのフィニッシュとなった。(阿部)

1500m 決勝

- 1位 櫻井大介 (京都大 2) 3:57.57
- 2位 木場 陽一朗 (神戸大 3) 3:58.09
- 3位 岡本 渉 (和歌山大 4) 3:58.93
- 4位 平井健太郎 (京都大 2) 3:59.41
- 7位 久好哲郎 (京都大 4) 4:02.13

予選に出場した3人ともが決勝に顔を揃える事となった。櫻井は序盤から中盤にかけてトップ集団についていき、ラストで一気にスパートをかけて優勝を勝ち取った。平井は序盤でトップ集団を引っ張り中盤にかけて周りに追い上げられたものの、耐えて4位でフィニッシュした。久好は後ろにつきチャンスを窺いながら徐々に順位を上げ、ランキングを覆して7位となり得点に貢献した。(猪原)



1500mで三人全員で得点した櫻井、平井健太郎、久好

女子4×100mR 予選 (3組 2着+2)

宮崎伶菜—熊澤真奈—藤森光世—中尾優里

3組 7着 51.07

このメンバーで走る初の4×100mRが関西インカレという大きな舞台になった。女子短距離を牽引してきた釜谷がメンバーに入っていないにもかかわらず、4人のバトンは見事に渡り、目標の52秒代を大きく超える51.07をマークする結果となった。順位こそ上位ではなかったものの、夏の七大戦や秋の東大戦にもつながる非常に良いシーズンインとなったレースであった。(俵谷)

4×100mR 予選 (3組 2着+2)

岡田洋—石田真也—牧川真央—水上裕介

3組1着通過 40.63 **蒼穹新タイ**

男子四継予選のオーダーは岡田-石田-牧川-水上。スタートを得意とする岡田は60m付近で一つ外側の走者を捉え、石田へバトンパス。バトンは詰まったものの、石田は100m予選での好調ぶりそのままに他大を抜き去り牧川へ。牧川の安定したコーナーリングにより独走状態を作り出し、アンカーの水上は勢いに乗って一着でゴール。タイムは40.63の蒼穹タイ記録。バトンに余裕があったので決勝では優勝、更に蒼穹新の可能性も予感させるものであった。(林大祐)

女子走高跳決勝

- 1位 山本 有希子 (甲南大 3) 1m69
- 2位 荒谷 絵里佳 (甲南大 1) 1m69
- 3位 西村 莉子 (立命館大 2) 1m66
- 23位 中尾 優里 (京都大 3) 1m45

女子走高跳には中尾が出場した。中尾は春先の怪我の影響により満足に練習を積めていない中での試合であったが、1m40から跳び始め、余裕をもって一発でクリアした。1m45では1本目失敗してしまうが、2本目では跳躍を修正し無事越えることができた。自己ベストタイとなる1m50は惜しくもクリアすることができなかったが、少しでも良い記録を出してチームに良い流れを作ろうとする必死な姿勢を見せてくれた。(山岡)

ハンマー投決勝

- 1位 河野 達彦 (摂南大 4) 52m84
- 2位 内藤 克己 (和歌山大 4) 52m64
- 3位 西出 大志 (大阪産業大 3) 47m55

10位 林 真幸 (京都大 4) 38m46

ハンマー投には昨年同様、林真幸が出場した。この冬場は改修工事や就職活動の影響もあって思うように練習を積めなかった林だったが、まったくそれを感じさせないような調子の良さで試合に臨むことができた。1,2投目はターンの早さに対応できていなかったが、3投目までに修正して見事ベストを1m更新した。結果は10位であったが、次回以降の対校戦での活躍を感じさせる試合となった。(若園)

十種競技(前半)

戸川洋一 (3) 3465点 (暫定2位)

100m 11.14(+0.1) 一走幅跳 6m59(-1.0) 一砲丸投 10m23 一走高跳 1m80—400m 50.51
菅原知紘 (4) 3333点 (暫定3位)
100m 11.83(-0.7) 一走幅跳 6m59(-0.1) 一砲丸投 8m48 一走高跳 1m95—400m 50.82

菅原

トラック&フィールドの部初日の十種競技前半は気温が高く、好コンディションの中行われた。100mはスタートは問題なく良い反応で飛び出した。後半少し固くなってしまい、ベストに届かなかったが好記録をマーク。走幅跳では1本目から足を見事に合わせ、また2本目で記録を伸ばしてベストを更新。砲丸投げでは1投目で腰の入った投擲をし、ベスト更新。走高跳では195cmを2回めで成功し、198cmに臨んだが踏切が乱れてしまった。400mは戸川と同じ組で行われた。ベストには届かなかったものの、スタートからゴールの寸前まで力みのないリラックスしたフォームで走りきった。大

きな失点も無く、初日としていい滑り出しであった。

戸川

全種目ベストを目標とする戸川は初日、京大勢の期待に応える競技を見せた。100mは加速、疾走ともにスムーズに繋げ、後半の失速はピッチを上げることで対応しベスト更新。走幅跳では1本目のファールを修正し、2本目で足を合わせてベスト更新。砲丸投げでは1投目でベストを更新。2,3投目で更なる記録を狙うも、フォームが安定しなかった。走高跳では180cmまで一発クリアで順調に記録を伸ばしてベスト更新。183cmの挑戦は惜しくも失敗したが、今後更なる更新に期待がかかる。400mでは、菅原と同じ組でスタートし、メインストレーツで腰が落ちるも持ち前のパワーで追い上げを見せ、菅原を追い抜いてベスト更新。6000点台に向けて素晴らしい滑り出しを見せた。(田中智章)

対校得点(2日目終了時点)

1位	京都大学	27点
2位	摂南大学	17点
3位	大阪経済大学	11点

第3日目 5月10日(金)
長居第1陸上競技場

110mH 予選 (2組 2着+4)

栗林健一(4)	1組 3着通過	15.18(−0.4)
戸川洋一(3)	1組 4着通過	15.18(−0.4)
牧川真央(4)	2組 4着通過	15.28(−0.4)

関西インカレ3日目のトラック最初の予選種目である110mH予選には、栗林、牧川、戸川の3名が出場した。第1組には栗林と戸川が出場。栗林は前半から積極的なレースをするも、前を走る他大の選手に後半で差を広げられてしまう形となってしまった。一方、戸川は十種競技の110mHを走り終えてから25分後という状況の中ではあったが、後半でも落ちない粘りのある走りをした。2組目には牧川が出場した。牧川は前半のハードルから抜き足をぶつけてしまい、後半まで引きずってしまった形となってしまった。3人揃っての決勝進出を果たした。(長崎)

100m 準決勝 (3組 2着+2)

石田真也(2)	3組 1着通過	10.78(−0.1)
牧川真央(4)	2組 1着通過	10.86(±0.0)
眞武俊輔(4)	1組 3着通過	10.97(+0.6)

男子100m準決勝には眞武、牧川、石田の三人が出場した。眞武はスタートでは飛び出せなかったが、徐々に追いついて3着。なんとか決勝進出を果たした。牧川もスタートやレースの前半はあまりスピードに乗っていなかったが、最後の20mで追いついて、1着でフィニッシュ。石田はかなり好調であった。スタートから先頭に立ち、最後は流しながらそのまま1着でゴール。決勝へつながる走りを見せてくれた。(豊本)

400m 決勝

1 位	田中 諒 (神戸大 3)	47.49
2 位	吉田 晃規 (摂南大 4)	47.94
3 位	高田 昌人 (大阪府立大 2)	48.33
7 位	庄司 真 (京都大 3)	49.78

庄司は 8 レーンでのスタート。スタートで出遅れることはなかったが、いまひとつスピードに乗り切れない。100m を過ぎた地点で神戸大の田中(9 レーン)に追いつかれる。バックストレートでは徐々に周りから遅れ始め、6 位で低迷。ラスト 200m を越えてもいつもの伸びが出てこない。一度は 5 位に迫るほどの勢いもあったものの、結局序盤のビハインドを覆せなかった。ラスト 100m、ホームストレートでは寺尾(大阪市大)にも抜かれてしまい結果は 7 位となった。本来の力を出し切ることはできなかったが貴重な得点を得ることができた。(南日)

110mH 決勝 (−0.5)

1 位	志和 凌能 (摂南大 3)	14.62
2 位	天野 翼 (摂南大 3)	14.74
3 位	後藤 佑介 (大阪大 2)	14.77
6 位	栗林健一 (京都大 4)	15.12
7 位	牧川真央 (京都大 4)	15.14
8 位	戸川洋一 (京都大 3)	15.17

110mH 決勝には栗林、牧川、戸川の 3 人が出場した。栗林は前半から持ち前の丁寧なハードリングを見せ、大きなミスもなく走り切って 6 位。牧川は 110H 予選、100m 予選に続くレースとなった。ハードルを越える際に抜き足を何台かぶつけ、そこで減速

し持ち前のスプリントを生かし切れずに 7 位。戸川は 1 日目から続いている混成競技で疲労がきており、前半からキレがなかったように思われたが、そんな中でも予選に続けて 15 秒 1 台を出し 8 位だった。(佐藤)

100m 決勝 (±0.0)

1 位	石田 真也 (京都大 2)	10.64
2 位	森本 克貴 (神戸大 4)	10.67
3 位	向井 大志 (佛教大 4)	10.72
6 位	牧川 真央 (京都大 4)	10.83
8 位	眞武 俊輔 (京都大 5)	11.03

風のない走りやすいコンディションの中行われた男子 100m の決勝には、眞武、牧川、石田が出場。勢いよくスタートを切ると、石田が持ち前の大きな走りでぐーんと周りに差をつけ、見事優勝。PB を更新する圧巻の走りだった。牧川は多種目出場の中、疲れを感じさせない積極的な走りで 6 位、眞武は、8 位ではあったものの、先輩らしい粘り強さを見せつけ、チーム全体を盛り上げた。3 人そろっての決勝で京大の勢いを見せつける、素晴らしいレースだった。(藤森)



圧巻の走りで 100mを制した石田

点を狙うべくスタートから上位集団に食らい付き、中盤で 6 位の単独走となった。前から落ちてきた選手を差せそうなところまで来たが、ラストスパートを掛けるも及ばず、組内 6 着。総合 7 位で、目標の得点獲得と蒼穹新記録を達成した。(大海)

5000m 決勝

- | | | |
|------|-------------------|------------|
| 1 位 | タイタスキハラ (奈良産業大 4) | 14. 36. 83 |
| 2 位 | 横山 裕貴 (京都大 4) | 14. 40. 03 |
| 3 位 | 村本 一樹 (兵庫県立大 2) | 14. 42. 10 |
| 4 位 | 平井 健太郎 (京都大 2) | 14. 46. 40 |
| 11 位 | 新田 一樹 (京都大 2) | 15. 08. 10 |

女子 3000mSC 決勝

- | | | |
|------|------------------|------------|
| 1 位 | 中新井 美波 (大阪学院大 4) | 10. 35. 87 |
| 2 位 | 佐藤 奈々 (京都教育大 M2) | 10. 38. 46 |
| 3 位 | 後藤 みのり (大阪学院大 3) | 10. 49. 26 |
| 7 位 | 岩橋 優 (京都大 M1) | 10. 58. 28 |
| 22 位 | 三村 有葉 (京都大 4) | 12. 48. 24 |

蒼穹新

小雨の降る中女子 3000mSC は 2 組でスタートした。1 組三村は序盤から後ろの三人ほどの集団で終始抜きつ抜かれつのレースを展開していたが、終盤、ハードリング技術で勝っていた選手に走力の差で差されてしまい、結果は 22 位となった。2 組岩橋は得

雨が降り始める中 5000m は 1 組で行われ、横山、新田、平井の三人が出場した。序盤に奈良産業大の T. キハラがハイペースなレースを展開するも、京大勢は冷静に第二集団を形成する。横山と平井が先頭との差を少しずつ縮めていくなか、新田は遅れ始めてしまうが粘りの走りを見せる。残り 2 周で横山が抜け出し、他を寄せ付けないスパートを見せ 2 位でゴール、見事ハーフマラソンの雪辱を果たした。平井は 1500m での疲労があるなか、気合の走りで 4 位を勝ち取る。新田は惜しくも入賞を逃したが、大学新となる好走だった。(寶)



ハーフマラソン、5000m、10000mで得点した横山

4×400mR 予選 (3組 2着+2)

花岡洋祐—水上裕介—長谷川聡—庄司真
2組 2着通過 3. 19. 21

今回はマイルの経験豊富な3人と今期から400mにまで距離を伸ばしてきた水上が出場した。1走の花岡は安定した走りで2、3番手ほぼ同時でしっかりとバトンをつないだ。2走水上はバックストレートで3番手につけるもラストでは一人を抜き去り2番手の良い位置で次走者へ。3走長谷川は1番手の選手をぐんぐんと抜き去ると後続をおよそ10m離す好走でアンカーへとバトンをつなぐ。4走庄司は後続につめられて2番手に落ちるもラストの直線ではしっかり

と切り替えて2着で危なげなくゴールして決勝へと駒を進めた。(櫻井)

女子棒高跳決勝

- | | | |
|------|------------------|------|
| 1位 | 竜田 夏苗 (武庫川女子大 3) | 4m00 |
| 2位 | 宮川 海峰 (武庫川女子大 1) | 3m50 |
| 3位 | 岡城 有紀 (滋賀大 3) | 3m40 |
| 7位 | 宮崎伶菜 (京都大 3) | 2m60 |
| 8位タイ | 金澤和寿美 (京都大 1) | 2m60 |

女子棒高跳は小雨がぱらつき、ピットに対して向かい風が吹く悪条件下で行われた。京都大学からは宮崎と金澤が出場。宮崎は2m40、2m60を危なげなく1回でクリアする。金澤もまた、余裕をもって2m40を越えるが、続く2m60の1回目に失敗する。しかしながら2回目の試技ですぐさま修正し、見事にバーを越えた。2m80の試技では、金澤が3本とも惜しい跳躍を見せるも、クリアとはならない。宮崎もまた、バーを超えられる高さまで体を上げることができず、クリアできなかった。それでも両者は7位と8位タイに食い込み、貴重な得点をもぎ取った。(梶原)

三段跳決勝

- | | | |
|-----|---------------|--------------|
| 1位 | 勢力 薫 (大阪大 D1) | 15m36 (±0.0) |
| 2位 | 門澤 裕樹 (摂南大 3) | 14m89 (+1.2) |
| 3位 | 森本 克貴 (神戸大 4) | 14m87 (+2.4) |
| 15位 | 西村 優汰 (京都大 4) | 13m89 (±0.0) |
| 16位 | 山岡 隆央 (京都大 2) | 13m83 (+0.7) |

三段跳決勝には西村と山岡が出場した。西村は一本目、助走の後半でリズムを乱してしまい、続く二本目ではジャンプで失敗してしまう。ベスト8進出を賭けた三本目の跳躍ではいつもの14m超えの跳躍ができたかと思われたが結果はファール、ベスト8進出にはならなかった。山岡は一本目、二本目ともにステップのつぶれた跳躍となってしまうもののPBを更新する跳躍を見せ、14mの跳躍の可能性を見せる。しかし三本目でもスムーズな跳躍ができず記録が伸びずに競技を終了した。(俵谷)

やり投決勝

- 1位 中澤 密(大阪大 3) 67m71
- 2位 佐圓 耀一(摂南大 3) 63m02
- 3位 神田 直仁(大阪大 2) 61m86
- 5位 山本 裕太(京都大 2) 54m59

2日目午後に行われた男子やり投には山本が出場。当日は雨がぱらついた時間もあったが、大きな影響は受けずに済んだ。山本は1、2投目で力が入りすぎたせいでファールとなってしまったが、3投目は落ち着いて7位に入り込んだ。そして5投目に自己ベストとなる54m59を投げランキングを大きく覆す5位となった。これが関カレ1部昇格に向けて勢いづくきっかけとなったであろう。(若園)

十種競技(後半)

- 菅原 知紘(4) 2719点
- 110mH 16.61(−0.7) 円盤投 23m27 棒

- 高跳 3m60 やり投 43m16 1500m 4.33.51
- 戸川 洋一(3) 2502点

- 110mH 15.13(−0.8) 円盤投 24m42 棒
- 高跳 2m80 やり投 32m16 1500m 4.41.09

菅原が3位、戸川が2位で始まった十種競技の後半。菅原は、最初の種目の110mHでは、ラストで先頭にちぎられるも後続の追い上げに負けず2着で終えた。続く円盤投で三投目に23m27でベストを更新する投げを見せた。棒高跳は、3m80はおしくも越えられなかったが、3m60を三本目に越えベスト更新を果たした。やり投では、棒高跳の直後ではあったが、身長をいかした力投を見せ一投目に43m16を出し最終種目の1500mにそなえた。1500mでは、後半からあげていき、ラストは先頭を抜き去り1着でフィニッシュした。戸川は、110mHでは1組目でスタートから集団を引き離し一着、続く円盤投では三投目に回転をうまくあわせて24m42の好投を見せた。棒高跳では、2m80をクリアし自己ベストを更新して3m00に挑んだが、あと少しのところでバーを落としてしまい終了した。やり投では三投目に大きく振り切り、32m16の記録をだした。1500mでは序盤から積極的に前に出るが、ラスト一周で上げられず、後続にかわされて4着だった。

2人とも2日間と長かったが最後まで戦い抜き総合でベストを更新し、京大は良い流れで3日目を終わらせた。(橋本浩法)

十種競技(総合)

- 1位 木戸 翼(摂南大 4) 6305点
- 2位 田内 数馬(摂南大 3) 6267点
- 3位 菅原 知紘(京都大 4) 6052点

4位 戸川 洋一（京都大 3）5967 点



十種競技で3位を取り活躍した菅原

対校得点(3日目終了時点)

1 位	摂南大学	79 点
2 位	京都大学	74 点
3 位	神戸大学	58 点
4 位	大阪大学	41 点

第4日目 5月12日(土)
長居第1陸上競技場

女子 200m 予選 (6組 3着+6)

釜谷 美翔子(4) 4組 6着 26.83(±0.0)

女子 200m予選には釜谷が出場した。レベルの高い選手が多い組となったが、序盤からそのペースに必死に食らいつく走りを見せた。しかしコーナーを過ぎたあたりから

減速してしまい、終盤でも苦しいレース展開となってしまった。準決勝進出はなかったが、来る七大会での活躍が期待される。
(俵谷)

200m 予選 (4組 3着+4)

水上裕介(4) 1組 3着通過 22.38(±0.0)

石田真也(2) 2組 1着通過 21.84(±0.0)

牧川真央(4) 3組 3着通過 22.56(±0.0)

1組水上、2組石田、3組牧川が出場した。1組は欠場者が3人おり、4人でのレースとなった。直線に入る手前で大商大北浦が離され、水上含む3人で競り合いながら3着。1組石田は100mを制した貫禄の走りで、ゴール前少々流すも21秒84でトップ通過。3組牧川は直線で一気に追いつき、最後は横を見ながら流す余裕を見せつつ3着に入った。全員着取りで順調に準決勝へと駒を進めた。(大海)

800m 予選 (5組 3着+1)

櫻井大介(2) 4組 1着通過 1.57.09

市川和也(2) 3組 7着 1.58.59

中井一宏(3) 5組 5着 1.59.89

中井、市川、櫻井の三人が出場。市川は集団の後方でレースを進め、自己ベストに迫る走りを見せるも7位でゴール。櫻井はラスト200mで前に出て先頭に立ち、余裕をもって1位でフィニッシュした。中井は集団がスロースタートとなり、ラストスパート勝負に持ち込んだが残り50mで後方の相手に抜かれ5位という結果になった。唯一準決勝に進出した櫻井は決勝に進出し、決勝で二人の分まで走り切ってくれるだろう。

(寶)

女子 400mH 予選 (5組 3着+1)

釜谷美翔子 (4) 3組 5着 1.04.95
熊澤真奈 (3) 4組 6着 1.09.28

雨模様の中、行われた女子 400mH 予選には、釜谷、熊澤が出場した。釜谷は、前半からテンポの良い、のびのびとした走りでレースを進めた。後半は、多少他選手につめられてしまったが、最後まであきらめない釜谷らしい力強い走りだった。熊澤は前半はハードルに足がつまっている場面も少しあったが、確実にハードルを越えていき、ラストではストライドの大きな走りで、粘り強さを見せつけた。両選手とも残念ながら、準決勝進出には届かなかったが、関西のレベルの高い選手がそろそろ大舞台でのレースの経験を今後に活かし、さらなる活躍に期待したい。(藤森)

400mH 予選 (3組 2着+2)

蔭山 凌 (3) 3組 1着通過 53.26
堀江一司 (4) 1組 1着通過 55.44

この種目には堀江、蔭山の2人が出場した。蔭山は京カレの反省を生かし前半からピッチを上げて、後続を突き放した。残り 150mを過ぎたあたりから上手く切り替えることができ、自己ベストの 53 秒 26 で 1 位通過。堀江は前回とインターバルの歩数が変わり逆足が増えたが上手く対応し、残り 100mで 3 人並んだところでまだ余裕があり、上手く切り替えることができた。これまた自己ベストの 55 秒 44 で 1 位通過。京大に良い流れを作った。(佐藤)

3000mSC 決勝

1位 小西 雄大 (滋賀大 4) 9:10.95
2位 高橋 流星 (大阪経済大 1) 9.15.10
3位 木村 友彦 (甲南大 3) 9.15.39
5位 不破 佑太 (京都大 M1) 9.27.10
9位 岡本 和晃 (京都大 2) 9.43.40
11位 久好 哲郎 (京都大 4) 9.50.39

小雨が降り、少し肌寒いコンディションの中行われた 3000SC 決勝には不破、久好、岡本の三人が出場。スタート直後、先頭集団が勢いよく飛び出し早くも集団は縦長になるが、不破は 8 番手あたり、久好、岡本は後方に付け冷静に様子を窺う。三名とも徐々にポジションを前に進めながら、不破が 7 番、岡本・久好が 10、11 番に付けた所でラスト一周の鐘。不破は気持ちのこもったスパートで前にいた二人を抜き去り 5 番に入り、岡本もホームの直線で一気に前を追い上げ、ゴール手前でとらえて 9 番に入った。久好は直前の怪我也あった中、何とか最後まで粘り切った。全体としてまだまだ伸びしろがあるので、以降七大戦などで大きく期待がかかる種目である。(平井健太郎)

200m 準決勝 (2組 3着+2)

石田真也 (2) 2組 3着通過 21.87(−0.8)
牧川真央 (4) 2組 4着通過 21.92(−0.8)
水上裕介 (4) 1組 6着 22.55(±0.0)

200m 準決勝には 1 組には水上、2 組には石田と牧川が出場した。午前の予選は小雨だったが、準決勝は止まない大雨の中で行わ

れた。水上は大雨の影響からか、予選よりもタイムを落とし、惜しくも決勝進出を逃す形となった。石田は予選よりもタイムを落としてしまったものの、組2着に入り、決勝進出を決め、牧川は雨の影響も受けずタイムを上げて組4着に入り、なんとか決勝に進むことができた。(古矢)

800m 準決勝 (2組 3着+2)

櫻井大介 (2) 1組2着通過 1.56.12

雨の降る中、男子800m準決勝に出場したのは櫻井。確実に決勝に進むことを狙うと宣言し、レースに臨んだ。序盤は集団の中頃を位置取り、力を使わずにレースを進める。400mを57秒で通過し、その後ペースを上げた先頭にくらいつき、スパートをかけて2位でゴール。流石の走りで危なげなく決勝進出を決めた。(松葉)

4×100mR 決勝

1位 京都大 40.81

【岡田洋一石田真也一牧川真央一眞武俊輔】

2位 大阪産業大 41.03

3位 摂南大 41.07

予選で蒼穹タイ記録の40.63を出し、記録更新も期待される中で行われた決勝。予選から好調の1走岡田は予選と同じく好スタートを切った。100mを優勝して勢いに乗る2走石田は他大と差をつけ一歩リードする形で3走につなぐ。100mでは6位と悔しい結果に終わった3走牧川は得意のカーブで一気に差を広げる力走を見せた。大きなリードを貰った4走眞武は力強い走りで追い付く隙を与えず、そのまま1位でフィニッ

シュ。見事に4連覇を果たした。タイムは40.81と蒼穹記録更新とはならなかったが、チームに勢いを与える素晴らしいレースであった。(岡野)

女子走幅跳決勝

1位 福西 穂乃佳 (京都教育大 1)
5m92 (±0.0)

2位 上垣 麻衣子 (武庫川女子大 2)
5m77 (±0.0)

3位 末永 成美 (大阪成蹊大 1)
5m71 (−0.2)

34位 宮崎伶菜 (京都大 3)
4m46 (−0.3)

少し肌寒く、雨が降る中、女子走幅跳が行われた。宮崎の1本目の試技では、寒さと雨の影響か、助走に若干の硬さが見られ、ファウルとなる。続く2回目、助走を修正し、きれいに踏切を合わせてきたように思われたが、わずかにつま先がはみ出し、ファウル。最後の跳躍では記録を残したものの、踏切ラインよりかなり手前から踏み切る形となってしまう、記録は伸びなかった。(梶原)

走幅跳決勝

1位 渡辺 祥 (大阪大 2) 7m31(+1.0)

2位 西村 優汰 (京都大 4) 7m30(±0.0)

3位 天野 翼 (摂南大 3) 7m22(±0.0)

4位 石田 真也 (京都大 2) 7m14(+0.4)

14位山岡 隆央 (京都大 2) 6m43(−0.2)

雨の中、摂南大と4点ビハインドで迎えた男子走幅跳。1本目で石田が7m01を跳び事前予想を覆しベスト8進出を確実にし、続

く西村も1本目で7m07を出し、同じくベスト8進出を決める。2本目に摂南大天野が7m22、3本目に大阪大渡辺が7m31を跳び、京大勢の順位は低迷する。山岡は6m43で進出を逃し不本意な結果に終わった。西村が5本目に大きな跳躍を見せるも7m30と、1位と1cm差の惜しい記録に。石田は6本目に7m14を残し、ランキングを大きく覆し4位に順位を上げた。2位西村4位石田で競技を終えた。(山本)



チームを引っ張り走幅跳で7m30の跳躍を見せた主将西村

走高跳決勝

1位	田中 英和	(大阪府立大 4)	2m03
2位	渡部 翔太	(大阪府立大 M1)	2m00
2位	安田 洋亮	(京都工繊大 3)	2m00
9位	菅原 知紘	(京都大 4)	1m91
	山岡 隆央	(京都大 2)	NM

男子走高跳には菅原と山岡が出場し、やや強い雨の降る中競技が行われた。菅原は1m80と1m85を順調にクリアし、1m88はパスした。しかし十種競技での疲労もかなりあり、1m91は3回目でのクリア、そして1m94は残念ながら失敗に終わり、9位であった。山岡は直前に走幅跳に出場していたこともあり、1m80をクリアすることができず、記録なしに終わった。悔しい結果ではあるが、もう一度仕切り直して、七大での活躍を期待したい。(下迫田)

対校得点(4日目終了時点)

1位	摂南大学	110点
2位	京都大学	98点
3位	神戸大学	66点
4位	大阪大学	62点

第5日目 5月13日(日)

長居第1陸上競技場

10000mW 決勝

1位	佐伯 佳祐	(大阪大 4)	43.20.45
2位	野喜 崇裕	(神戸大 3)	43.36.04
3位	甲斐 奨史	(大阪大 M2)	43.46.93
6位	樋口裕磨	(京都大 4)	46.25.25
11位	西田昌弘	(京都大 4)	51.36.26
	夫津木慶大	(京都大 3)	DQ

日差しが強く、5月とは思えない暑さの中でレースはスタートした。夫津木は緊張からか動きが硬く、序盤から警告を出され、3000m付近で失格となってしまう。西田は

自分のペースで歩き続けて前を追う。レース中盤、軽快に歩く樋口は警告を出されて少しペースが落ちるが、その後、再びペースを上げる。そして、5位の選手にも追い付く勢いを見せるが、そのまま6位でフィニッシュ。タイムは46.25.25と大きく自己ベストを更新し、ランキングを覆した。西田も自己ベストを更新し、チームに大きな勢いを与えた。(岡野)

800m 決勝

1位	亀坂 晃司	(大阪市立大 M1)	1.51.21
2位	櫻井 大介	(京都大 2)	1.51.96
3位	木場 陽一朗	(神戸大 3)	1.52.70

櫻井は5レーンでのスタート。いつも通りに序盤は冷静に入る。先頭は亀坂(大阪市大)を中心とした数人。彼らがペースを引き上げる。櫻井は一周目では前から6番目についていたが、ラスト一周に入って集団がバラけると前へ、前へと詰めて行くもバックストレートのあたりでの追い越しに躓く。ラスト150mくらいから先頭が飛び出し、木場(神戸大)ら2人の選手が負けじと追いかける。櫻井は最先頭の集団に追いつくことに成功し、2位、3位の選手をラスト80mで抜く。しかし亀坂は後ろとの差を開けて走っており、櫻井は追いつけずそのまま準優勝となった。(南日)

400mH 決勝

1位	木場 翔一朗	(大阪市立大 3)	52.88
2位	堤 上総	(大阪産業大 4)	53.60
3位	山本 航輝	(摂南大 4)	53.63
5位	蔭山 凌	(京都大 3)	54.39
6位	堀江 一司	(京都大 4)	54.77

予選では蔭山、堀江共に自己ベストを更新し、期待がかかるこの種目は関カレ最終日の昼下がりに行われた。スタートから積極的なレースを展開した蔭山に対して、堀江は冷静で落ち着いたスタートを切った。勝負が見えたのは第3コーナーを迎えたあたりであった。蔭山は普段からこの第3コーナーを過ぎたあたりから走りを切り替えるのだが、このレースでは前半に飛ばし過ぎたせいか後半に伸びがあまりなかった。一方、堀江は第3コーナーを過ぎたあたりからの切り替えしがうまくいき、最後は4回生の意地が見えた走りで結果も自己ベスト、6位と事前ランキングを大きく覆す走りだった。両者とも京大を勢いづける走りであった。(長崎)

200m 決勝 (+0.5)

1位	田中 諒	(神戸大 3)	21.49
2位	石田 真也	(京都大 2)	21.64
3位	向井 大志	(佛教大 4)	21.79
4位	牧川 真央	(京都大 4)	21.81

男子200m決勝には牧川と石田が出場した。前日までとは打って変わって猛暑のなか、レースは始まった。どちらもこれまでに数多くの種目に出場し、双方にとってこの種目が関西インカレ最後の種目であったが、疲労に負けない力強い走りを見せ、牧川は4位、石田は自己ベストで2位となった。残念ながらどちらも目標としていた優勝には届かなかったが、あと一步というところまで追い上げた二人は、京都大学に最後まで諦めない姿勢を示してくれた。(山岡)

女子 5000m決勝

1 位	簗下 明音	(立命館大 4)	15. 52. 95
2 位	園田 聖子	(立命館大 1)	15. 53. 50
3 位	大森 菜月	(立命館大 1)	15. 55. 02
18 位	岩橋 優	(京都大 M1)	17. 26. 07
26 位	田中 友里	(京都大 4)	18. 00. 90

女子 5000m には岩橋(M1)と田中(4)が出場した。ハイペースな先頭に二人は冷静に対応し第三集団に付く。暑く乾燥したコンディションの中、集団が形成されにくいレースだった。岩橋は独りで堪える苦しいレース展開となったが最後まで粘りスパートをきかせてゴールした。田中は前の選手に離されぬよう堪えに堪える走りだった。二人とも目標に 30 秒ほど足りなかったが複数種目出場の疲労と最近までの比較的冷涼な気候からの急な変化のなかよく堪えたと言えるだろう。(新田)

10000m決勝

1 位	谷本 旭洋	(大阪経済大 3)	30. 43. 27
2 位	平井 健太郎	(京都大 2)	30. 56. 88
3 位	村本 一樹	(兵庫県立大 2)	30. 59. 29
7 位	横山 裕樹	(京都大 4)	31. 08. 31
13 位	平井 幹	(京都大 4)	32. 05. 49

気温の高い中行われた男子 2 部 10000m 決勝。スタートと同時に溝渕(大経大 3)と平井幹が飛び出したが、1000m 通過時点で後続に吸収されて大きな集団に。1km あたり 3 分一桁のペースで落ち着き、レースは終盤へ。6000m 付近で平井幹が集団から離され始め、7000m を過ぎると先頭集団も 7 人に。そしてラスト 1000m、平井健と村本(兵県大 2)がスパートし、平井健が 2 位。横山裕も粘

りを見せて 7 位入賞を果たした。(岡本)

4×400mR 決勝

1 位	大阪市立大	3. 14. 42
2 位	神戸大	3. 14. 78
3 位	京都大	3. 16. 10

【花岡洋祐—水上裕介—長谷川聡—庄司真】

1 走の花岡がスタート。冷静な走りをして、ひとつ外側の 9 レーンとの差を少しずつ詰めていく。しかしひとつ内側の神戸大が前半から詰めてくる。しかしそれでも花岡は冷静に走り、最後の直線ではスピードの落ちた神戸大をつきはなす。そして 2 位で 2 走の水上にバトンを渡す。この時点で順位は 1 位大阪市立大、2 位京大、3 位神大。カーブあけのオープンレーンに差し掛かるところで神戸大と横に並び、水上はここで前に出ようとするが、なかなか前に出ることができない。そのまま前に出た神戸大についていく。そして最後の直線に差し掛かるとスパートをかけるが神戸大を抜かすことができず、3 位で 3 走長谷川にバトンを渡す。長谷川は目の前にいる神戸大についていき、200m 付近で神戸大と京都大が 1 位の大阪市立大に追いつく。しかし最後の直線に差し掛かるところで、大市大はスパートをかけ抜け出る。そして神戸大と横並びのまま 4 走庄司にバトンを渡す。神戸大の 4 走は 400m で優勝した田中(3)が走る。さすがに優勝者ともあって、庄司は少し離される。しかし粘り強く 5m 位の差をキープし、そのままゴール。(石田)

棒高跳決勝

1 位	山方 諒平	(摂南大 3)	5m10
-----	-------	---------	------

2 位 高橋 遼 (大阪大 M1) 4m80
3 位 杉森 史智 (摂南大 4) 4m80
4 位 田中 皓介 (京都大 M2) 4m40
7 位 秋元 一志 (京都大 M2) 4m20

前日までの雨も止み、太陽が照りつける晴天の 4 日目最終日、男子棒高跳には岡田 (3)、秋元 (M2)、田中 (M2) の 3 人が出場した。グラウンド改修工事のため冬期はまったく跳躍練習が出来ないという厳しい練習環境だったためか春先は調子が上がらなかった岡田であったが、この日はシーズンベストである 3m80 をクリアした。京大棒高跳を 5 年間牽引してきた秋元、田中はベテランの貫録を見せ、それぞれ 4m20 (7 位)、4m40 (5 位) を跳び共に入賞、得点してくれた。(大沼)

砲丸投決勝

1 位 石田 泰進 (摂南大 3) 13m30
2 位 金銅 秀明 (摂南大 2) 12m84
3 位 堤 裕一 (摂南大 3) 12m60
7 位 山本 裕太 (京都大 2) 11m26

最終日にふさわしい好コンディションの中行われた砲丸投には昨年と同じく山本が出場した。練習投擲から調子の良さがうかがえ、4 投目に自己ベストを更新する 11m26 を投げランキングを 2 つ上げる 7 位となった。春先から続く足の痛みをもつての自己ベストはこれからの好記録を予感させるものであった。(若園)

平成 25 年度新入生名簿 (5 月 20 日現在)

名前	学部	出身高校(都道府県)	パート	種目・高校ベスト
男子				
足立 涼	医	北野(大阪)	中	800m 1'56 1500m 3'56"38
安邊 啓明	理	栄光(神奈川)	長	5000m 16'30 3000mSC 10'48
天野 康平	文	岸和田(大阪)	短	400m 53"88
稲垣 達也	工	津(三重)	長	
海老原 脩	農	西京(京都)	長	5000m 17'11
岡野 颯斗	農	西京(京都)	中長	800m 2'03 1500m 4'12 3000mSC 9'28"53 5000m15'50
岡部 龍樹	文	奈良(奈良)	短	400m 50'7
小野坂 健	理	竹早(東京)	短	
紀平 直人	総人	高槻(大阪)	短	
久米 裕輔	農	東邦大附東邦(千葉)	中長	1500m 4'07 5000m 15'25
作田 隆之	工	高岡(富山)	長	
佐藤 啓太	工	天王寺(大阪)	短	100m 11"5
申 偉琦	工	遼寧瀋陽(中国)	長	
新村 航輝	農	広島(広島)	短	400m 49"96 400mH 55"96
高石 雅貴	農	明和(愛知)	長	
備藤 翼	医	北野(大阪)	短	100m 11"30 200m 22"82
福島 快	工	菊里(愛知)	跳	
松下 隼人	工	北野(大阪)	跳	
宮垣 寛之	工	北野(大阪)	短	400m 54'59
山木田 雅	農	岐阜(岐阜)	短	100m 10"94 200m 21"89 400m 50"86
山下 哲弘	経済	西南(福岡)	中長	800m 2'00"61
我妻 総	農	芝(東京)	長	800m 2'09"17 1500m 4'24"37 5000m 17'31
女子				
綾 遥奈	理	観音寺第一(香川)	中	
泉 奏子	京女	伊丹北(大阪)	マネ	
岩瀬 千秋	奈良女	竹園(茨城)	マネ	
大井 千鶴	同志社	金沢泉丘	中	800m 2'19 1500m 4'50
金澤 和寿美	工	西京(京都)	跳	棒高跳 3m35

小堂 夏希	工	学芸大附属国際(東京)	長	
小林 香菜子	理	両国(東京)	長	
中西 規能	医	西京(京都)	マネ	
松岡 茜	同女	千種(愛知)	マネ	
山中 遥加	農	帝塚山(奈良)	短	100m 13"48 200m 27"17



蒼穹ニュース 平成 25 年度 第 2 号

平成 25 年 5 月 23 日 発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部

編集者：俵谷侑吾・梶原諒一・岡野椋介（副務）

特別協力：樋口裕磨・山口昌太（学連員）

長崎裕貴（記録係）・岡田洋（HP 係）

写真担当：山田健太郎・豊本竜希・阿部健一

陸上競技部 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/index.html>

陸上部記録 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/kiroku/index.html>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>

メールアドレス 101hawwww.9@ma.nasicnet.com (梶原)